

## ●無痛分娩をご希望の方へ●

### 【1. 無痛分娩とは？】

麻酔薬を使って陣痛の痛みを和らげて出産する方法です。

初産、経産にかかわらず妊婦さんの希望に応じて対応いたします。

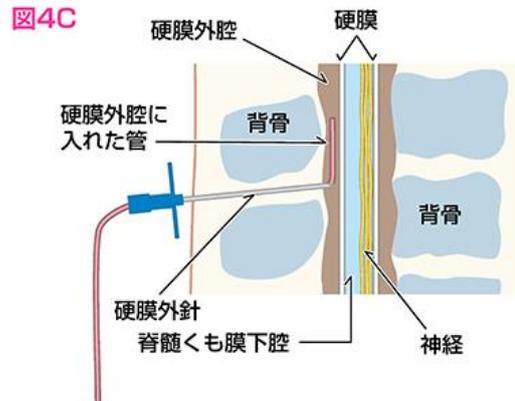
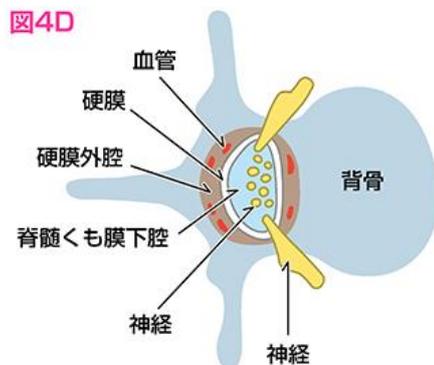
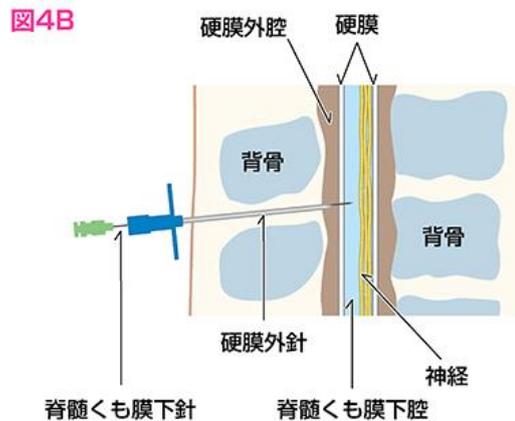
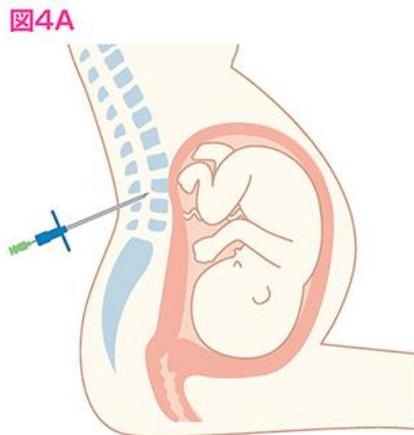
当院では、硬膜外麻酔による無痛分娩を行っておりますが、麻酔の効き方には個人差があります。

### 【2. 麻酔の方法は？】

当院では、硬膜外麻酔による無痛分娩を行っております。

坐位になっていただき、腰背部を消毒してから行います。初めに少しだけ、針を入れる時の軽い痛みがありますが、その後の痛みはありません。腰から入ったカテーテルが注射器につながっており、そこから麻酔薬が入り、少しずつ追加していきます。

お母さんの体を図4Aに示しました。背中への針の付近を拡大したものが図4Bと図4Cです。図4Dは背骨の横断面図です。脊髄くも膜下硬膜外併用鎮痛/麻酔では硬膜外針が硬膜外腔に入った後に、別のごく細い針を、硬膜外針の中を通して脊髄くも膜下腔に刺し、脊髄くも膜下腔に薬を注入します(図4B)。その細い針だけを抜き、今度は硬膜外針の中を通して硬膜外腔に細い管を入れます(図4C)。そして管のみを残して硬膜外針を抜きます。管から薬の注入をします。



©日本産科麻酔学会

### 【3. 効果は？】

痛みの感じ方、効果には個人差はありますが、最大の痛みを100%とすれば、30%位に減ります。痛みを0まで下げてしまいますと、分娩の進行が遅くなるというデメリットがあるため、30%くらいに調節します。

### 【4. メリットは？】

痛みを和らげることにより、体力の消耗を減少させ、産後の体力を温存することにより産後の育児をスムーズに開始できるメリットがあります。また、血圧や血糖値の上昇を抑える効果もあります。

### 【5. リスクは？】

分娩遷延、血圧低下、胎児心拍数の低下、頭痛、発熱、かゆみ、腰部・下肢の神経障害・排尿障害等の症状がでることがあります。無痛分娩自体は安全な医療として確立していますが、医療行為であるので上記のような合併症がおこることがあります。

また、吸引分娩となることもあります。

### 【6. 計画無痛分娩について】

あらかじめ日程を決めて、子宮頸管長や陣発誘発をおこし、安全な管理の中で無痛分娩を行います。無痛分娩日の前日に入院していただき、人工的に分娩を開始させる処置を行っていきます。

子宮頸管拡張・・・入院時の内診所見で子宮の出口の熟化が進んでいない場合にミニメトロを用い、人工的に子宮の出口を広げる処置をすることがあります。

子宮収縮薬（陣痛促進剤）・・・自然分娩の際に脳の下垂体から分泌されるホルモン（オキシトシン）と同じ成分の薬剤を使用します。使用時には分娩監視装置で陣痛間隔や赤ちゃんの状態を見ながら調整していきます。

また、無痛分娩では硬膜外麻酔によって、陣痛が弱くなるため、子宮収縮薬が必要となる可能性が高くなります。

### 【7. 無痛分娩中の過ごし方】

○入院日の朝食よりお食事できません。飲み物は飲んでいただけます。

○麻酔開始後はベッドで横になったり座ったりして、安静にお過ごしいたできます。

歩行は転倒の危険性があります。歩行が必要な場合は病棟スタッフが介助いたします。

### 【8. 費用は？】

分娩費に加え下記費用がかかります。

・無痛分娩実施費用 90,000 円

・無痛分娩の管理料・入院料 10,000 円/日 ※分娩に至るまでの入院日数に応じて変わります。

### 【9. その他】

分娩の経過等により無痛分娩を提供できない場合があります。

説明日： 令和 年 月 日

医師名： \_\_\_\_\_

## 無痛分娩同意書

無痛分娩の実施について十分な説明を受け、理解いたしましたので、同意いたします。

本人住所 \_\_\_\_\_

本人氏名（署名） \_\_\_\_\_ ㊞

配偶者又は保護者 住所 \_\_\_\_\_

氏名（署名） \_\_\_\_\_ ㊞ （患者様との続柄 \_\_\_\_\_）